

【特集】

大学から地域の最前線へ、  
三重大学の新しい社会連携。

## CONTENTS

【View of This issue】

大学の第3の使命、  
地域における社会連携の在り方

●理事・副学長 | 小林英雄

01

【特集／学長・社会連携関係者座談会】

大学から地域の最前線へ、  
三重大学の新しい社会連携。

●学長 | 豊田長康  
●福理事 | 奥村克純  
●特命学長補佐 | 加藤征三  
●産学連携コーディネーター | 相可友規  
| 司会 | 理事・副学長 | 小林英雄

02-05

【RESEARCH FRONT 1】

インド仏教思想を深く読み解き、  
「存在とは何か」を探究

●人文学部准教授 | 久間泰賢

06-07

【RESEARCH FRONT 2】

暗黒物質の分布を観測から捉え、  
銀河形成の謎に迫る

●教育学部准教授 | 伊藤信成

08-09

【RESEARCH FRONT 3】

次世代ゲノム創薬科学の実現をめざし、  
メタボリックシンドロームの独自モデルを創成

●大学院医学系研究科教授、  
産学連携医学研究推進機構長 | 田中利男

10-11

【RESEARCH FRONT 4】

光ファイバを、安心・安全な  
社会の実現に活用するために

●大学院工学研究科教授 | 成瀬 典

12-13

【RESEARCH FRONT 3】

ゼブラフィッシュを用いた  
「異分野融合型」のバイオ研究

●大学院生物資源学研究所准教授 | 田丸 浩

14-15

【TOPICS】

「騒音の計測と評価 / dBとLAeq」

「前立腺の病気 改訂新版」

「神経内科の緩和ケア」

2006年12月～2007年5月

三重大学の主な出来事

16



## 大学の第3の使命、 地域における社会連携の在り方

理事・副学長(情報・国際交流担当)

小林英雄

法人化以降、大学の基本的な使命である教育と研究に  
次ぎ、第3の柱として社会連携の重要性が増している。法  
人化以前では、社会連携は「社会に開かれた大学」をめ  
ざした社会貢献活動の一環として実施されてきた。つまり、  
これまでは公開講座や生涯教育など大学組織としての取  
り組みが主であり、教員個人が企業と積極的に関わりを持  
とうとする活動は少なかった。これに対して、法人化後では、  
教員自らが研究成果や技術ノウハウを情報公開し、企業  
などと共同で実用化し社会に還元するという積極的な姿  
勢が強く求められている。法人化後の教員に期待される  
最も大きな意識改革は、こうした社会連携への取り組みと  
言っても過言でない。

一方、社会連携への取り組みを同じく目標に掲げていても、  
大都市にある大学と地方の大学とでは自ずと様相が異なっ  
てきている。大都市大学がグローバルな社会連携を志向  
するのに対して、地方大学では最も身近な周辺地域との  
連携を重要視している。地域との連携には、教育、まちづ  
くり、文化・歴史の調査、地域医療から企業への技術支援  
や地域人材育成と多岐に亘っている。これら地域に密着  
した連携活動は、結果として地域から期待される大学とし  
て、地域に欠かせない大学として地域住民に認識される  
ことになる。地域との連携は、このように法人化後の地方  
大学として果たすべき重要な使命となっている。

三重大学では、「三重から世界へ：地域に根ざし、独自性  
豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・  
共生の中で～」を大学のミッションとして掲げ、これら使命  
を果たすことを目指しています。地域における教員レベル  
の連携活動こそが、結果的に三重大学を世界に飛躍させ  
る原動力となるのではないのでしょうか。

こばやしひでお  
工学博士  
専門分野は、衛星通信・  
移动通信・無線LAN  
1951年生まれ

